

「一秒の言葉」
～一度だけ放送された幻のセイコーのCM～
小泉吉宏

「はじめまして」
この一秒ほどの短い言葉に、
一生のときめきを感じるときがある。

「ありがとう」
この一秒ほどの短い言葉に、
人のやさしさを知ることがある。

「がんばって」
この一秒ほどの短い言葉で、
勇気がよみがえってくるときがある。

「おめでとう」
この一秒ほどの短い言葉で、
しあわせにあふれることがある。

「ごめんなさい」
この一秒ほどの短い言葉に、
人の弱さを見ることがある。

「さようなら」
この一秒ほどの短い言葉が、
一生の別れになるときがある。

一秒に喜び 一秒に泣く。

一生懸命 一秒。

夢 愛

義務教育最後の定期テストが終わりました！次は私学入試！
今日も突然ですが読んでくれば、うれしい通信です。
進路選択と戦っている君に、こころの栄養として・・・CMシリーズ3

◆これも、今までに、二度だけ放送された SEIKO の「一秒の言葉」というCMです。一度目は、1994年にラジオCMとして制作されたものを、翌年の1995年にテレビCM化したもので、同年暮れの「ゆく年くる年」で、たった一度だけしか放送されませんでした。

◆そして、二度目のリメイク版は、2008年6月10日の「時の記念日」にハイビジョン映像で放送され、オリジナル版と同じく一度しか放送されませんでした。

◆当時、広告マンとして働き、現在は漫画家として活躍している小泉吉宏さんが、広告マン時代に作った詩だそうです。

◆放映後には、その「短い言葉」に、心打たれた多くの人たちの反響があった。結婚式のスピーチに引用されたり、今では小学校の道德の教材にもなっている。

◆語り尽くせない思いを短い言葉に託す。だが、時間に追われる現代では、その短い言葉さえも省略されがちだ。人と人とのつながり、それは言葉と時間の織り成すストーリーだ。

◆「思いを込めた時間と言葉」・・・一秒という時間に僕は君は一生懸命になれているだろうか。

◆そして、詩とは面白いもので、同じ詩でも15歳の時に読むのと、18歳で読むのと、20歳40歳60歳で・・・、年齢（人生）を重ねるごとに、行と行の間にあるイメージやメッセージの感じ方が変わっていく、より豊かに、より深く・・・今日の「一秒の言葉」もそんな詩だ。

「卒業」まで、どんな美しい一秒の言葉を積み重ねますか？

『行く言葉が美しければ 来る言葉も美しい』

いいよね！「ありがとう」という美しい感謝の言葉の裏に、

夢があり・喜びがあり・愛がある。

◆小泉 吉宏（こいずみ よしひろ 1953年 - ）は日本の漫画家であり、絵本作家。正確には「吉」の字は「士」に「口」ではなく、「土」に「口」の字を使う。 静岡県浜松市出身。武蔵野美術大学商業デザイン学科卒業。 広告代理店勤務ののち、1987年に独立する。東京コピーライターズクラブ会員。 心温まる漫画や絵本が多い。

1993年『ブッタとシッタカブッタ』（メディアファクトリー）でデビュー。

1994年『リュウノスケ』（新潮社）。

1999年『ブッタとシッタカブッタ3・なあんでもないよ』で第45回文藝春秋漫画賞受賞。

2002年『大団源氏物語 まろ、ん?』（幻冬舎）で第6回文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞。